

学友会座談会 大学活用の道標

獨協大学の課外活動を支える学友会。
学生生活を彩るその活動について、今回は学友会、体育会、文化会、愛好会の本部、及び各部に所属する学生であり、自らも役員としてメンバーをまとめる5人の方にお話を伺いました。

全ての学生は学友会会員であり、会長(学長)の下に学生代表である委員長が全学生の参加による選挙で選出される。
本部は所属団体の統括を行っている。



吉川 信将 教授(司会)
学友会総務部長/
法学部法律学科教授

吉川 学友会の委員会活動や部活動に取り組んでいる皆さんにそれぞれの活動の実態や想いを伺っていききたいと思います。皆さん体育会、文化会、愛好会の団体間や、それらの所属を超えたところでの交流はありますか？

体育会では全体で体育祭がありますね。春は1年生だけ、冬は全員参加で年2回。団体同士の交流の機会になっているようで、特に1年生は親しくなるきっかけになっていると聞きます。

それはいいですね。文化会だとなかなか全体ではできなくて。ただ、美術部、文芸部、写真部、漫画研究会では雄飛祭の時に合同で雑誌をつくっていて、それぞれの部で分配して販売しています。交流の機会としてはそういう場が大きいかな。

放送研究会はナレーションをしたり映像をつくったりして、いろいろな団体と関わっています。公式のLINEアカウントで広報媒体の制作依頼も受け付けているので。撮影や取材で実際に団体の活動が見られるのは楽しいです。古典ギター部でも、マンドリンクラブと一緒に演奏会を開催しており、交流の機会になっています。

広報ですか、それいいですね。実は以前からちょっと思っていることがあって：文化会は予算の都合でなかなかイベントも



きず宣伝の機会が少ないのですが、活動を知ってもらうためにもほかの団体のイベントに協力できないでしょうか。美術部ならイラスト、写真部なら写真、文芸部ならキャッチコピーで、ポスター作りとかできると思います。

そうですね、確かに学友会のイベントもポスターは内部で作りましたが、美術部とコラボして作れたらいいのができそうです。



文化会
は固くて真面目に思われがちですが、実はやろうと思えば何でもできる団体なんです。部室も機材もそろっているし、でも自由な分メンバーによって空気が違って、コンクールを目指したり広報映像をつくったり：それを楽しめるのも良さだと思います。

自由さで言えば愛好会は本当にそれぞれですね。軽音楽系の団体は、定期演奏会としてお互いに披露しあったりもしています。部内で交流を深めることに重きを置いているところも多いです。その一環として雄飛祭や定期演奏会を目標にみんなで頑張っている姿をよく見かけます。

団体単位の交流で言うと、実は体育会は閉鎖的な気がしますがね。高い目標に向けて頑張っている分、所属の団体以外に目が行きにくいというか。体育祭でも体育会の中でだけですし、先ほど話されていた放送研究会の広報活動も知りませんでした。もったいなかっ

でも自己紹介で話せることがたくさんあります。それに、所属団体は自分の居場所にもなります。大学は広くて授業も多いけれど、授業だけならほかの大学でも受けられる。学友会や団体は獨協大学にしかありませんし、その仲間はここにしかいません。そういう居場所を作っておくと自分が大学の一員だと実感できるし、大学が楽しくなりますよ。

今、学友会活動に参加していない学生と、これから入ってくる新入生たちがいます。本部として、多くの学生に参加してもらって、学友会活動を、ひいては大学全体を盛り上げたい。学生生活を楽しむための一歩として学友会活動に参加してほしいと思います。団体の選び方も自由で、仲間を作って活動すること自体を目的にしてもいい。活動に参加しながら迷ったっていいし、モデルさんや尾竹さんのように、いろいろな団体を経験することもできます。それぞれの方法で学友会活動を存分に楽しんでほしいですね。



※本文内敬称略

たなあと：学友会本部には、そういう活動の周知も、できればお願いします(笑)。

はい、頑張ります(笑)。皆さんの場合は目標が大会や雄飛祭だったりすると思うんですが、我々は学内を盛り上げるのが目標ですからね。コロナ禍もようやく明けてイベントなどができそうですし、地域に開かれた大学を目指す獨協大学としても、各団体と協力して一緒に頑張っていけるといいですね。

吉川 ここ数年は団体活動もコロナ禍で窮屈だったでしょうね。獨協大学の持ち味である留学などもかなり制限を受けていました。数年前なら各団体でも国際色が強い獨協大学ならではの風景が見られたかと思うのですが、今はどうでしょうか？

今も国際色はありますよ、僕が美術部の部長をしているくらいですから(笑)。他の部でもメンバーに外国人がいてもおかしくないと思います。

そうですね。留學生歓迎会の時、古典ギター部で演奏したんですが、その演奏を見て一緒に何か演奏できないかと言ってくれた留學生もいました。バイオリンを演奏される方で、まだ実現はしていませんが連絡を取り合っています。

愛好会で中国語を広めたいという留學生もいました。それも実現には至りませ



でしたが、留學生でもそうした挑戦がしやすいのは獨協大学の特徴かもしれません。

実際の入部者に関しては、体育会の各団体競技は大会での勝利を目指すのが前提ですので、未経験者で1年の留学期間だけ参加したいといった話になると、なかなか指導する余裕も取れなくて：もちろん部によっては参加者もいるとは思いますがね。

各部次第ですよ。うちの場合ドイツ人留學生と一緒に活動して作品を描き上げて、ちょうど展示会があったので出張して帰国しました。

各団体の状況を把握はできていませんが、愛好会は比較的参加しやすいかと思いますが、愛好会は比較的参加しやすいかと思

入部できるかどうかは各部の判断ですが、制度としては全く問題ありません。愛好会ならもっと自由ですし、気軽に聞いてみてもいいかもしれませんね。言葉の壁も低いですし、入りやすい環境だと思います。留學生も積極的に参加してみたいですね。

吉川 最後に、皆さんから新入生や、まだ課外活動に参加していない留學生たちに向けてメッセージをお願いします。

学生の身分はもちろん学業、でも学友会活動が留學生生活を有意義にします。活



動範囲が拡がり、考え方の違う人に出会って生活を充実させてくれる経験です。「あの時やっておけばよかったな」って後悔するのは、学生生活で一番もったいない！ 2年生でも3年生でも、迷っているならまず挑戦してみてください。

僕も同意見で、大学生活って授業だけだと知り合う人は意外と少ないんですよ。それに付き合いが薄くなりがちで、もったいないと思います。学友会は今までやってこなかったことをするチャンスでもあります。いろんな団体を経て美術部長になりましたが、この経験も新しいことに挑戦するチャンスになりました。そういう絶対の機会、利用して損はないですよ。

愛好会
はあくまで自由な場ですので、無理に入るとはいいません。でも入ったら新しいことに挑戦できて新しい友達できて：それはきっと財産になると思います。あとは体育会や文化会、学友会本部、そして愛好会本部の活動にも目を向けてもらえると嬉しいですね。人数が不足していて、1年生が2人しかいませんので：よろしくお願いします(笑)。

私は一人ひとりが名刺を持っていることも学友会の魅力だと思っています。私なら「放送研究会 部長」で「古典ギター部 副部長」で「学友会本部 広報部長」。学外の人に



獨協大学学友会本部
ホームページは
こちらから！